

南アフリカ・アフリカ民族会議(ANC)全国大会

著者	林 晃史
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アフリカレポート
発行年	1991-09
出版者	アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00008610

南アフリカ・アフリカ民族会議

(ANC) 全国大会

林 晃 史

南アフリカ共和国（以下、南アと略す）の民族解放組織「アフリカ民族会議」（ANC）の第48回全国大会が1991年7月2～6日の5日間、ナタール州のダーバン・ウェストビル大学で開かれた。60年のシャープビル事件後にANCが南ア政府によって非合法化されて以来、大会が30年振りに南ア国内で開かれた意義は大きい。特に、今大会はアパルトヘイト諸法全廃後の次の段階として制憲会議にのぞむANCの役員および全国執行委員の選出、国際社会の対南ア経済制裁解除の動きに対するANCの対応を明らかにするという点で、南ア国内のみならず国際社会の大きな注目を集めた。以下、この大会についてみていくことにしよう。

1 ANC内の諸派

1912年に創設されたANCは80年近い歴史をもち、その過程でさまざまなグループから形成されてきた。創立期の会員はすでにいない。第2次世界大戦中にANC内の若手が結成した「青年同盟」のメンバーが、現在の古参グループ（Old guards）と呼ばれるO・タンボ議長やN・マンデラ副議長である。ANCは60年に非合法化されて国外に本拠を移し、ゲリラ組織「ウムコント・ウェ・シズウェ」

（現地語で民族の槍の意）を結成し、武力解放闘争を開始した。この過程で特に76年のソエト蜂起後、南アフリカを脱出した青年たちがANCに入会してYoung Lionsと呼ばれるグループを形成した。一方、ANCは武力解放闘争開始以来、ソ連からの武器供与を通じて「南アフリカ共産党」（SACP）との結びつきが強くなり、当時の執行委員の中にも相当数の共産党員がいてと言われている。

このような旧世代対新世代、民族主義者対共産党員という一般的な分け方の他に、ANC内の諸派に関してはS・ジョンソンの指摘するところによるとタカ派對ハト派、進歩派對保守派、強硬派對穏健派、改革派對革命派など、さまざまな色分けがなされることもある。たとえば民族の槍の指導者C・ハニ（Cris Hani）はタカ派、外交担当のT・ムベキ（Thabo Mbeki）はハト派といわれているが、後者の色分けは前者の色分けほど明瞭ではない。

2 ANC役員および全国執行委員の選出方法

1990年2月のデクラーク大統領の国会開会演説によって合法化されたANCは、直ちにW・シスル（Walter Sisulu）を国内組織責任者としてANCの

組織再建に着手した。W・シスルはマンデラと同様、62年に逮捕され、ロッベン島刑務所に長年投獄され89年10月に釈放された「ロッベン島出所者」の一人である。ANCは再建本部をヨハネスブルグに置き、全国を14地方(region)に分け、さらに各地方の下に支部(branch)と呼ばれる組織を置いて会員の獲得に当たるとともに、政治犯の釈放、亡命者の帰還を南ア政府に要求した。このように組織化が進んだ結果、現在ANCの会員数は40万〜50万人に上っているといわれる。

全国大会では55名の全国執行委員が無記名投票によって選出されることになっている。

全国執行委員の立候補に関しては、以下の手続きが採られた。すなわち、各支部は会員リストから全国執行委員会の中枢部となる役員5名(議長、副議長、書記長、書記次長、会計)を各1名ずつと、50名の全国執行委員を推薦する。そして全国大会前に開かれる地方大会で、各支部から2名の代表が出て、地方としての5名の役員および50名の全国執行委員を推薦する。この結果、全国大会前には14地方からそれぞれ一つの推薦者リストが選挙管理委員に届けられる。このうち、2地方以上から推薦された者のみが全国大会で立候補者として認められる。さらに全国大会前に国内に戻っていない亡命者のために、大会出席者の100名の署名があれば全国大会での立候補者として承認される。

また各地方から全国大会に送られる代議員数は各地方の会員数に比例しており、合計約2000名の代議員と非合法の時期に世界42カ所に置かれたANC代表部の代表を含む亡命者約200名が大会に出席し投票に当たる。地方代議員が多いのはPWV(プレトリア・ヴィットヴァーテルスランド・フェレニツヒング)地方とBorder(ケープ州東部)地方である。

3 推薦された役員立候補者

以上の手続きにより大会前に推薦された立候補者のうち、やはり注目的は5人の役員ポストであった。

まず議長としてはマンデラ副議長以外に立候補者はいなかった(ただタンボ現議長をどう処遇するかが問題として残った)。

次にマンデラ釈放後、ANC内で新設された副議長候補者としてはW・シスル(78歳)、T・ムベキ(49歳)、それにナタール・ミドランズ地方会長H・グウラ(Harry Gwala, 71歳)の名があがった。

書記長は議長とともに重要なポストであり、現書記長A・ヌゾ(Alfred Nzo, 66歳)への批判が多いことから交替は確実視された。候補者として、A・ヌゾの他、鉱山労働組合書記長のC・ラマフォサ(Cyrille Ramaphosa, 38歳)、ANCインテリジェンス責任者のJ・ズマ(Jacob Zuma, 49歳)があがり、世代交替の可能性が高かった。

書記次長の候補者としては、A・ヌゾ、統一民主戦線(UDF)書記長のP・モレフェ(Popo Molefe, 39歳)、C・ラマフォサの名があがっていた。

会計候補者には、現職のT・ヌコビ(Thomas Nkobi, 60歳)、Border地方会長のA・ストファイル(Arnold Stofile, 年齢不詳)、ANCイギリス代表部のM・ムシマングイ(Mendi Msimang, 年齢不詳)、J・ズマが推薦されていた。

一方、「婦人部」(Women's League)および「青年部」(Youth League)の各議長と書記長、それに14地方の各会長と書記長の32名については改選は行なわれなかった。

張した。

4 全国大会開催と開会演説

注目の全国大会は7月2日にダーバン・ウェストビル大学で開かれた。この大会にはアフリカ諸国をはじめ世界各地から約200名の来賓が招待された。

まずタンボ議長が開会の挨拶をし、過去30年間の非法下のANCの活動を回顧し、今大会が「少数白人支配下」の最後の大会になるだろうと述べた。さらに国際社会の対南ア経済制裁解除の動きに対して、制裁継続の必要性を強調した。そして最後に南アフリカ再建のための国際社会の協力、ANCの統一、人民の団結を訴えた。これに対し、2000名以上の代議員たちは、タンボ議長の過去30年間の指導に謝意を表し「アマンドラ！」（現地語で団結の意）の歓声をもって応えた。

来賓代表として壇上に立った「イギリス反アパルトヘイト運動」（AAM）会長のT・ハドルストン師（Trevor Huddleston）は、アパルトヘイトはまだ死んでいないことを強調し、また、西側諸国が現在、制裁を緩めようとしていることを厳しく非難した。

マンデラ副議長の演説は予想に反して厳しいものであった。マンデラは、デクラーク政権は依然人種主義、暴力、白人支配を続けようとする政権であり、ANCが望んでいるのは、制憲会議の開催と暫定政府の樹立であるとした。さらにマンデラは、既存の政党や組織以外と交渉しようとしていないデクラーク政権に対しては、ANCは依然として闘争を続けなければならない、そして、その闘争は「人民への権力の移譲」を目的とする交渉の継続以外にはないとした。そのためには民主的な憲法が採択されるまで対南ア制裁という武器を放棄しないよう国際社会に要請することであると主

5 役員の選出

役員の選挙は現執行委員会から委任された4名から成る選挙管理委員会が当たることになった。その委員長にはC・ヌペン（Charles Nupen）が指名された。ヌペンは労働争議解決の調停機関である「中立南アフリカ調停サーヴィス」の創設者であった。その他の3名は弁護士、国立法律センター所長、ダーバン・ウェストビル大学学長が指名された。

7月3日、まず新議長にマンデラが予想どおり選出された。タンボ前議長はANC全国会長（national chairman）に就任した。

つづいて副議長選出に当たり、T・ムベキがW・シスルをたてて自らは立候補を辞退したため、シスルとグワラの両名で争われることになり、投票ではシスル1567票、グワラ412票で、シスルが副議長に選出された。

注目の書記長のポストはラマフォサ、ズマ、ヌゾの3名によって争われた。開票の結果、ラマフォサ1156票、ズマ450票、ヌゾ371票で、38歳のラマフォサが選ばれた。ラマフォサは1952年にヨハネスブルグに生まれ、学生時代「南アフリカ学生組織」（SASO）に加入し、S・ビーコウの黒人意識運動の影響を強く受けた。このため74年に11カ月投獄され、76年のソエト蜂起では6カ月間拘留された。82年の「全国鉱山労働組合」（NUM）の創設とともに初代書記長となり、84年の鉱山ストライキのあと87年8月には南ア鉱山労働運動史上最大の争議を起こし、南ア金鉱山の半数以上をマヒさせた際の指導力が高く買われたものと思われる。

さらに書記次長選挙ではズマが1039票、モレフエが659票、ヌゾが258票で、ズマが現職のモレフ

エを破り当選した。また、会計には現職のヌコビがムシマングに勝ち、同ポストにとどまった。

6 新全国執行委員の選出とその特徴

5名の役員を除く50名の全国執行委員のポストに対し、推薦された立候補者の数は102名に達した。そのうち女性は25名であった。さらに大会に出席した代議員はその場で亡命者の中から40名を新たに追加推薦した。

開票結果は以下のとおりであった（第1表）。

新全国執行委員の特徴は、第1にアフリカ人だけでなくさまざまな人種から構成されていること、女性も多く含まれていることである。

第2に最高得票を得たC・ハニ（ゲリラ組織「民族の槍」議長）とT・ムベキ（外交部門責任者）がほぼ同じ1858票と1824票を得、ANC内のタカ派とハト派が、ほぼ同じように支持されたことである。

第3の特徴は若手グループの進出である。旧世代に属するのはA・カツラダ（62歳）、A・ムラン

第1表 ANC全国執行委員当選者

	得票数	得票率(%)		得票数	得票率(%)
1. Chris Hani	1,858	94.7	26. Winnie Mandela	1,057	53.9
2. Thabo Mbeki	1,824	93	27. Joe Nhlanhla	1,053	53.7
3. Joe Slovo	1,761	89.8	28. John Nkadimeng	1,049	53.5
4. Patrick "Terror" Lekota	1,724	87.9	29. Dullah Omar	1,031	52.6
5. Pallo Jordan	1,702	86.8	30. Mohammed Valli Moosa	1,014	51.7
6. Ahmed Kathrada	1,697	86.5	31. Gertrude Shope	958	48.9
7. Ronnie Kasrils	1,666	85	32. Andrew Mlangeni	956	48.8
8. Harry Gwala	1,644	83.8	33. Siphwe Nkanda	955	48.7
9. Steve Tshwete	1,634	83.3	34. Sidney Mafumadi	931	47.5
10. Arnold Stofile	1,546	78.8	35. Elias Motsoaledi	927	47.3
11. Popo Molefe	1,523	77.7	36. Mendi Msimang	884	45.1
12. Joe Modise	1,510	77	37. Reginald September	854	43.5
13. Raymond Mhlaba	1,489	75.9	38. Barbara Masekela	844	43
14. Mac Maharaj	1,462	74.6	39. Billy Nair	837	42.7
15. Alfred Nzo	1,420	72.4	40. Mcwayizeni Zulu	814	41.5
16. Ruth Mompati	1,357	69.2	41. Sister Bernard Ncube	808	41.2
17. Albertina Sisulu	1,321	67.4	42. Gill Marcus	800	40.8
18. Raymond Suttner	1,310	66.8	43. Jeremy Cronin	792	40.4
19. Trevor Manuel	1,253	63.9	44. Rocky Malebane-Metsing	772	39.4
20. Ebrahim Ismail Ebrahim	1,249	63.7	45. Kadar Asmal	771	39.3
21. Aziz Pahad	1,198	61.1	46. Saki Macozoma	758	38.7
22. Cheryl Carolus	1,168	59.6	47. Peter Mokaba	731	37.3
23. Albie Sachs	1,161	59.2	48. Zola Skweyiya	719	36.7
24. Joel Netshitenze	1,119	57.1	49. Thozamile Botha	717	36.6
25. Wilton Mkwayi	1,107	56.5	50. Marion Sparg	717	36.6

（出所） The Star, 1991年7月8日。

ゲニ（66歳）、E・モツォアレディ（66歳）、B・ナイル（61歳）で、残りは新世代の人々である。たとえば、P・レコタは43歳、P・モレフェは39歳、T・マニユエルは35歳で、彼らは全て「草の根民主運動」（MDM）の指導者であった。

第4は、共産党員の進出である。上位10名のうち5名は共産党員で、なかんずく、ハニは党中央委員、J・スロボは党書記長である。さらに50名のうち少なくとも半数は共産党員である。

第5は、2人のホームランドの野党指導者の当選である。M・メチングは1988年にボプタツワナのL・マンゴープ大統領に反対して軍事クーデターを起こしており、もう1人のM・ズールーはズールー王家の一員でG・ブテレジ（クワズールー首相、インカタ自由党党首）の反対者である。このことはANCメンバーがホームランド政策に反対していることを示している。

おわりに

このようにして選出された全国執行委員が直ちに直面する問題は、第1に黒人間武力衝突の終結と第2に制憲会議開催のための白人政府との話し合いである。

第1の問題解決については、幸い教会と南ア財界の仲介により6月28日、ANC、政府、PAC、インカタ自由党との話し合いが行なわれ、解決に向けての努力の合意がなされた。残された問題は今後、その合意をそれぞれがいかに実行していくかである。

第2の問題に関しては、大会前にANCが政府につきつけた7項目の期限つき最後通告のうち2項目しか満たされなかったため、ANCは交渉打ち切りを宣言した。しかし、今大会で、交渉も闘争手段の一つであることが再確認され、制憲会議開催に向けての話し合いが続けられることになった。そ

の際、新しく選ばれた役員および全国執行委員が、いかにANCの要求をねばり強く主張していくか、今後の動向が注目される。

（はやし・こうじ／地域研究部）